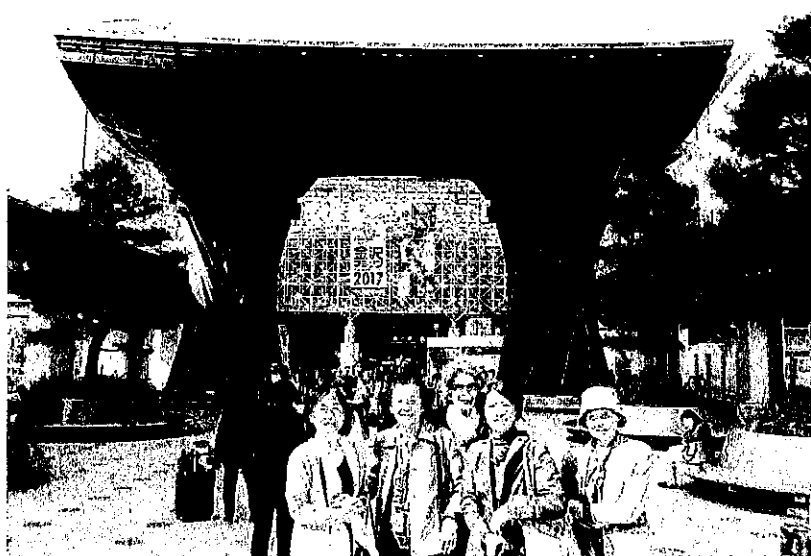
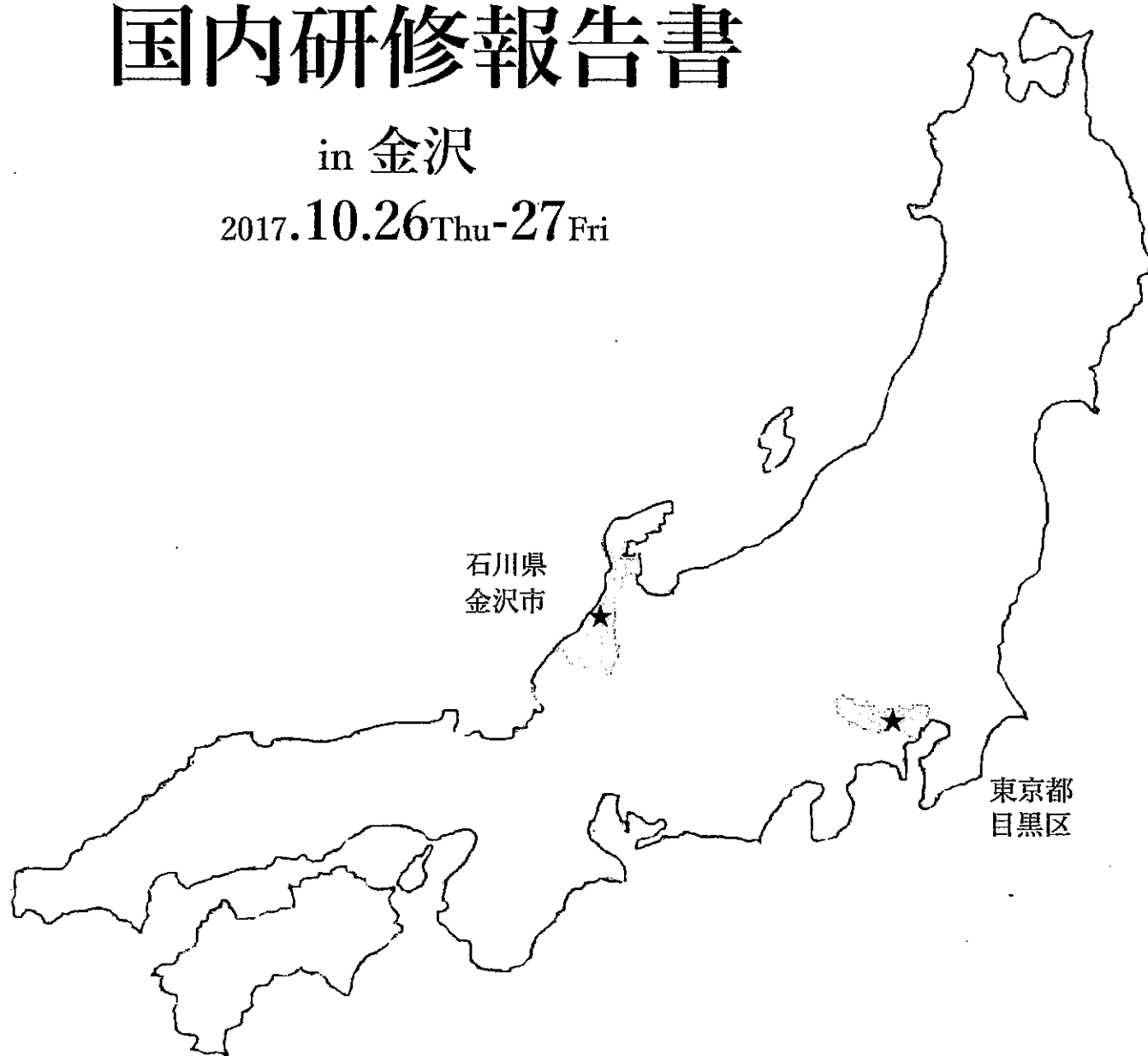


国内研修報告書

in 金沢

2017.10.26Thu-27Fri

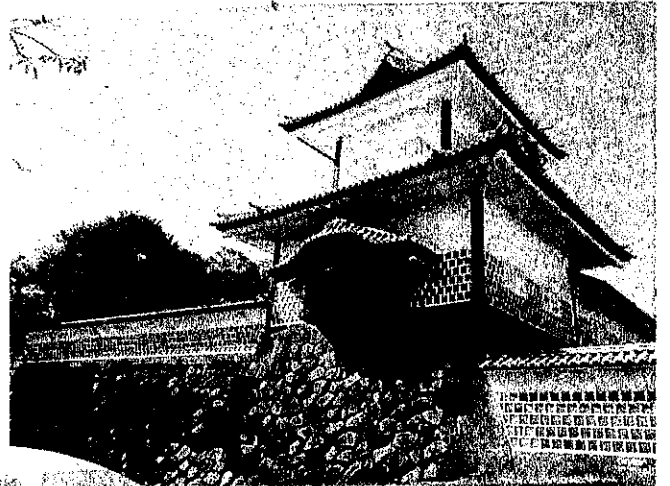


目黒女性団体連絡会

国内研修 金沢

2017. 10. 26Thu-27Fri

金沢



金沢城 菱櫓



尾山神社



石川県女性センター

平成29年度目黒女性団体連絡会国内研修会報告書

- 1、実施日 : 2017年10月26日(木)～10月27日(金)
- 2、研修先 : 石川県女性センター並びに金沢市女性センター
金沢市役所人権女性政策推進課
- 3、研修目的: 男女平等・共同参画に対する意識を目黒区の地域社会に根づかせるため、先進県である石川県並びに金沢市の施策から学ぶ。
- 4、研修内容:
 - 第1日目 ①石川県女性センターで、県庁職員から県の男女共同参画推進施策について学ぶ。特に男女共同参画推進員の設置と、その活動について。その後、県と市のセンター職員から、センターの事業概要、運営状況の説明を受けた。
②石川県各種女性団体連絡協議会のメンバーと交流。日頃の活動状況について懇談した。
③県と市の女性センターの施設見学。
 - 第2日目 金沢市役所人権女性政策推進課を訪問し、市の男女共同参画施策について、特に、男女共同参画アドバイザーの設置とその活動、保育所内に設置された金沢地域子育て支援センターの事業など。
- 5、日 程
 - 10月26日 8:36 東京駅発北陸新幹線かがやき505号乗車。
11:06 金沢駅着、石川県女性センターへ。
13:00～14:00 県と市の施策と各センターの事業説明。
14:00～15:30 県各種女性団体連絡協議会との交流。
15:30～16:30 県と市の女性センター施設見学。
 - 10月27日 9:30～11:00 金沢市役所人権女性政策推進課訪問。市の男女共同参画施策について学ぶ。
15:55～18:28 金沢駅発かがやき510号乗車、東京駅解散。
- 6、研修参加者 5名 秋枝シュザンヌ (女性学習グループ連絡会)
奥山 利子 (ウイメンズめぐろ)
酒井 寿子 (ウイメンズめぐろ)
廣橋 泰子 (女性学習グループ連絡会)
山下美由紀 (新日本婦人の会目黒支部)

石川県男女共同参画推進施策

男女共同参画推進員の設置とその活動及びセンターの事業概要、運営状況の説明を受ける。

配布資料

1. 「男女共同参画社会の実現に向けて 男女がともに輝く石川に」
2. 「心豊かで知的な空間」 石川県女性センター
3. 公益財団法人「いしかわ女性基金」平成29年度 事業案内
4. 石川パープルリボン キャンペーン 2017 石川県
5. 「デートDV ってなに？」石川県民文化局男女共同参画課平成29年3月
6. 「エールいしかわの女性へ」石川県女性センター
7. 「企業に活かせる女性力」受講生レポート 公益財団法人いしかわ女性基金

県庁職員から県の施策、男女共同参画推進員・その活動についてきく。

当センターは、女性の地位向上と社会参加の促進に資することを目的として、1979年10月開設された。名称は「石川県女性センター」県民文化スポーツ部に属し、男女共同参画と少子化対策に取り組んでいる。

出生率は石川県10%（全国平均16% 目黒は10%強）、シングル率が高い。ゆるやかなM字カーブ、女性の管理職率は低い。大企業が少ない。

各部所のトップは男性なので、女性が働きやすい職場をと改善に努めている。資料3によると、「いしかわ女性基金」が女性人材育成プログラムとして、女性の管理職を養成する案内をしている。

県条例は大分県とともに早く、2001年に制定された。

男女共同参画推進員はこの条例を活かし、男女共同参画を地域に浸透させる役として女性センターが養成している。

資料に基づき事業概要、運営状況の説明を受ける。

資料1. Change Challenge Chance 3つのCで活力はぐくむ。(職場編、家庭編、地域編) その中の家庭編には固定的性別役割分担意識からの脱却を、地域編には「女性防災士数は全国トップクラス」 災害時に女性の視点を取り入れた救助活動、避難所の運営(授乳・着替えの場の設置)を行うための防災士育成講座の開催。女性が指導的立場になれるように男女共同参画の意識を強める、と記されている。

資料1.4.5は 知ることの必要を伝える啓発誌として、高校生に配布。

* 「女性なんでも相談室」一般相談と特別相談の日時を分けている。専用電話。

* 図書情報室 貸し出しは3冊まで、返却は会館外でできる。

石川県男女共同参画推進員について

1 男女共同参画推進員とは

石川県男女共同参画推進条例(※)に基づき、地域における男女共同参画の推進の担い手として、公募及び市町長より推薦のあった方の中から知事が委嘱。

※県は、県民の協力を得て男女共同参画の推進を図るため、男女共同参画計画の普及啓発その他の活動を行う男女共同参画推進員を置くものとする。

(石川県男女共同参画推進条例第10条)

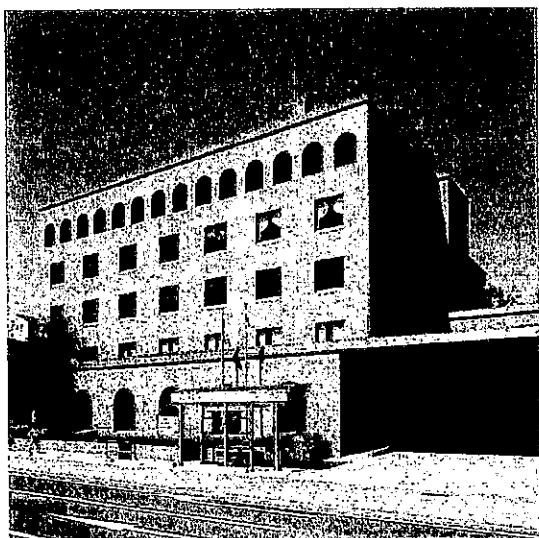
2 男女共同参画推進員の任期等

委嘱をした日から2年間(97人)

3 男女共同参画推進員の役割

地域における男女共同参画の推進を図るために、次の活動を行うこと。

- (1) 条例及び「男女共同参画計画」の普及啓発及び県事業への協力
- (2) 市町男女共同参画計画の推進への協力
- (3) 地域における男女共同参画に関する情報提供



石川県女性センター

金沢市女性センター

3F

金沢市女性センター施策

配布資料 沿革 施設 組織 運営 事業

広田氏（館長の代理）による説明

県民文化スポーツ文化部という名称で平成11年発足した。

全国2番目に発足の婦人会館（1番は長野県）。市の直営。審議会は住民参加、県・市合同の建物。今年は323日開館した。

金沢市は国勢調査では女性就業率が高い。実家に子どもを見てもらう場合が多い。女性の管理職比率が問題

県はM字カーブをあげる、キャリアアップに努めている。女性は働けど、トップは男性、働きやすい場で女性が伸びたい。「男女共同三角錐！」地域の共同参画については男女共同参画推進員を97年に担当者に協力の依頼をした。推進員の資格は、との目黒からの質問に対し、公募である。男女比は半々、作文募集のほか、行事に職員が地域で活動している人に関わって募集の依頼をする。

「防災」へ男女共同参画が入る指針は、資料によると、女性防災士数は石川県が全国トップクラス。女性の参入で避難所に授乳の場、着替えの場を設置する提案などが出た。地域の防災では、小松市の委員が男女共同参画と絡めてフォーラムでワークショップを行っている。若い世代への働きかけとしては、高校や中学の文化祭に出向き、小学生との会合では紙芝居を使うなどして、多くの人に広め、市のイベントや農産物売買の場でアンケート・呼び込みを行うなど工夫をしている。職員研修にはジェンダー論を入れて、性別役割分業の解消など、職域地域で講座を繰り返している。大学や高校のジェンダー論に職員が出向き、アンケートを行い、話し合い学習をもつ。商業の表現に〇×を付けるなど。前記資料4.5は高校生に配布している。石川県は金沢市に一極集中しがちである。人口も集中。男女ともに50～60代の就労中の人が多い。

女性センターの運営は市の直営である。住民参加の男女共同参画審議会には男性2名が入っている。運営委員会が決定権を持つ「女性センター」という名称は今、珍しいけど、こだわっているかとの目黒からの質問には、いずれ変わるでしょうけど、現在は女性が社会的に不利であるから、との返答をもらう。（目黒は設立時に、名称に「平等」を入れることを目黒女性団体連絡会が申し入れた。行政とのやり取りは多かった。だから「男女平等・共同参画センター」の名称は大切にしていると発言）。中央、地方の差かな、名称ゆえに男性は使いにくい、女性の利用が7割。でも、男性が増えているサークルもある。

社会教育館や公民館との区別についての質問に、公民館は地域の活動に十分に使用されている、との返答。

施設の案内、説明を受ける

開設 1979年10月 金沢市三社町1番44号

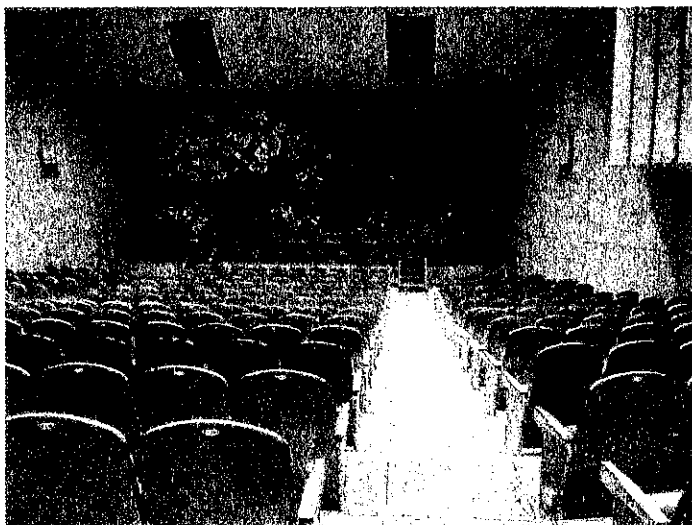
全館を館長の案内で見学する。平日のせいか空室が多かったが、100席の大会議室、研修室ほか、県の行事などの日の盛況場面が想定できた。ホールは350席、非常に明るい心地よい空間であった。

県女性センターの3階全フロアが市の女性センターである。

リーフレットには「女性・男性を問わず、講演会・会議・お食事と幅広くご利用いただけます」と記されている。

定刻に見学を終了し、交流都市なのでよろしくと、館長はじめ職員に見送られてセンターを後に、ホテルへ戻り、直ちに次の訪問先へ向かう。

記録 酒井寿子 (ウイメンズめぐろ)



1F ホール

技能習得室和裁センター

石川県各種女性団体連絡協議会との交流会

はじめに・・・

石川県各種女性団体連絡協議会の常光利恵会長さんと役員の皆様に迎えられて、台風一過の清々しい日差しのさしこむお部屋で交流会を致しました。

皆さまにはお忙しいところ目黒女性団体連絡会の金沢研修をお受け頂き、また事前に資料等お送り頂き、ありがとうございました。私どもは、一つ前の懇談が長引き、開始が遅れてしまったこと、大変申し訳なく思っています。そのような事があったにも関わらず、美味しいごぼう茶と、能登のよもぎ饅頭を頂きながら、和やかに交流会ができましたこと、心より感謝申し上げます。

事前に頂きました資料より…

①日頃の活動状況は

年1回発行の会報「華輪」1年間の事業が記載されています。

②国際化に向けた地域づくり

県主催の中国江蘇省女性団体との交流事業。訪中・受け入れに参加。

③日本女性会議 2018in 金沢

当会も、実行委員会に加わっています。苫小牧大会にも参加しました。

《石川県各種女性団体連絡協議会加盟団体》

1. 公益社団法人 石川県看護協会
2. 石川県更生保護女性連盟
3. 石川県生活学校連絡会
4. 石川県 21 ネットワーク
5. 公益財団法人 石川県母子寡婦福祉連合会
6. NPO 法人ウィメンズ・エンパワーメント・金沢プロジェクト
7. 沖縄と心をつなぐ女たちの会
8. 認定 NPO 法人おやこの広場 あさがお
9. 金沢友の会
10. JA 石川県女性組織協議会
11. 新日本婦人の会石川県本部
12. 生活協同組合コープいしかわ
13. 電子レディース石川
14. 日本女性会議 2018in 金沢実行委員会

《石川県各種女性団体連絡協議会》 (ご参加頂きました皆さま)

- ・会長 常光 利恵氏 石川県 21 ネットワーク
- ・副会長 菅村 美知子氏 電子レディース石川
- ・副会長 前 雅子氏 石川県更生保護女性連盟
- ・書記 宮崎 禮子氏 JA 石川県女性組織協議会
- ・会計 武田 節子氏 金沢友の会

※本日、書記・会計の各 1 名の方は欠席でした

◇ 金沢友の会 武田 節子氏 (会員数 94 名)

羽仁もと子さんが金沢では昭和 5 年に創設して、思想しつつ、生活しつつ、を標語として家庭の良き成長から健全な社会を創ることを願い励むという団体で、主な活動内容は、衣・食・住・家計・子供部などで色々研究されて、1 年に何回か、生活講師として料理クラス、洋裁クラス、生花クラス、などの、生徒さんを招いて教えている。要望があれば留学生を招き、日本料理、巻き寿司など作ることを教えている。年 1 回奉仕の日というのがあって施設などにお届け物をしている。若い人たちへの呼びかけもしているが、70 代が中心で、高齢の方々が活躍しなければならない現状との事。

家計簿の考案者、羽仁もと子さん創設のこの会とあって、この時期は、家計簿講習会でお忙しいとのことでした。

◇ JA 石川県女性組織協議会 宮崎 禮子氏 (9,085 名)

JA をよりどころとして、食や農、暮らしに関心のある女性が集まって活動する組合員の組織。20 代から 90 代まで幅広い世代の方々に農家でない人でも誰も気軽に参加できる。JA 女性組織は全国の殆どの JA にあり、全国 664 組織、約 60 万人のメンバー。石川県のメンバーは 9,085 名。組織数は、石川県内で 17JA のうち 15JA。石川県 JA の女性正組合員数は 13,908 名。その割には女性の役員は、30 名で、とても寂しい状況とのこと。

食農教育、地産地消だけでなく助け合い運動、環境保全活動など社会的な活動などにも取り組んで、安全安心な食をモットーにしているとの事。JA と羽咋市でコラボして自然栽培を推奨しているお米、神子原米と言って、ローマ法王に献上したという経緯もあり今は、全国から自然栽培の勉強に来られる若者も増えているとのことでした。

ローマ法王への献上米でブランド化を図り限界集落を活性化したとのお話はもっと詳しくお聞きしたかったです。

◇ 石川県更生保護女性連盟 前 雅子氏 (2,929名)

更生保護女性連盟、県単位ですが、実は全国組織になっていて、この会は、地域から立ち上がった会で、そこが誇れるとのこと。石川県は平成 21 年に 50 周年を迎えたが、日本更生保護女性連盟は、平成 25 年に 50 周年を迎えた。今は千葉景子さん（元法務大臣）が、会長をされているとのこと。

主な活動は①犯罪非行防止活動、保護司さんと一緒に社会を明るくする運動と一緒に啓発活動をする②ちょっと間違っただけで犯罪をしてしまった少年や施設においでの方達、刑務所、少年院を出てきてもうちに帰られないで更生保護施設におられる方々の所に、おふくろの味を届け、少しでも家庭の味を味わって頂いて更生してもらえぬ事を信じてやっているとのこと。

県の、ある更生保護施設へ、毎週お弁当を届けているが、県内 16 地区あるが当番を決めて毎週やっている所がよそには無く、そこが評価されて去年は県の団体として法務大臣からの感謝状を頂いたそうです。当番が来たら自分達の責任として、料理を考え届ける。保護司は任命されてやりますが、女性会は任意の団体ですので、保護司と一緒に犯罪防止活動をしていると。目黒では高齢化が一番の原因で中々大変です。と申し上げると、高齢化はどこでも課題ですが辞める人は新しい人を誘って辞めて下さいと声をかけていますと。

前向きな責任を持って活動されている皆さんに頭が下がりました。

◇ 電子レディース石川 菅村 美知子氏 (40名)

この間 25 周年を迎えましたパソコンを主に教えているグループ。いしかわ女性基金の支援を受けて毎年、4 回～5 回コースを作って、1 コースが 6 回学べるというコースを無料でやっている。最初立ち上げた頃はまだパソコンが無い頃にワープロからパソコンに移る頃からと。最初パソコンは 2 台、現在は 10 (テン) が 10 台準備されている。最初は全然知らない者同士だったが、その中で勉強しながら、教えられる位になれる。ワード、エクセル、インターネット、年賀状などを作りながら学んでいく。本当の目標はインターネットをできるようになって、歳をとってもメールができれば他の人と通じたり、引きこもる事もないよね。なるべく出来る様になったらいいよねという思いから。最高齢 90 歳の方もいらしたとの事。

解らないところは懇切丁寧に手とり足とり教えますのでそれが魅力。全部初心者コースで受講を終えた方で、分からない時いつでもやりましょうと最後まで責任をもってやっておられるとのこと。菅村さんは、他に石川県の男女共同参画推進委員を 2000 年の第一回目から活動していて、200 人が卒業したら応援団をつくってその応援団で地域へ出前講座に行く応援団をやっていると、男女共同参画推進委員の声を直接お聞きしました。

◇ 石川県 21 ネットワーク 常光利恵氏 (223名)

石川県 21 ネットワークという名称になる前は、女性問題アドバイザーの会というのを県が肝いりでやりました。男女平等に関係する勉強をし続けてきたが、男女共同参画推進委員制度になって、旧女性アドバイザーの方々に立ち上げたのが石川県 21 ネットワークです。珠洲市から能登半島、金沢、加賀に至るまでアドバイザーは沢山いらして、その中から何らかで繋がろうよという人達もあって、じゃあ 21 ネットワークで繋がろうという事になった。

年会費 1,000 円、1,200 円、切手代程度。県からの情報が来るのをコピーして情報を流す。たまには集まろうよとなれば 1 回、ないし 2 回集まる。現在、県内では 34 人、自分の頂いた情報を自分の経費でコピーし自分のグループに分けていく。年度末に何人くらい会員がいるのか把握する。何もかも自分たちで企画し、立案し、人集めに対処して、それをしなくていいと、ネットワークのありようを変えてきたとお聞きしました。

会の皆さんは歳を重ねましたが、歳を重ねたことをけして嘆かない。長生きして喜んでいる訳だから歳を重ねたことを理由にして会がどうだとか言うつもりはないと、『美人長命 才女多忙』・・・できる女は忙しい、美しい人こそ長生きするんだとあって、それなら私達が今いるメンバーが動きやすいところをやりながら魅力的な会にする。何処かに属していなければほとんど情報は送られてこない、ご自分の事ばかりではなく、相手の方を思いやって情報を送る。「男女共同参画」の広告屋さんのお話ぶりについて聞き入ってしまいました。

《質疑応答コーナー》

防災士の養成についてお聞きしたところ、県が半分、市・町が半分。受講者は無料。県内避難所の数 1,000、その避難所に 1,000 人の女性防災士をおく事を目標。これから 5 年計画で 2,000 人を目指している。2 日間、防災士協会の講義を受け、40 分の試験を受ける。点数によって防災士の資格が頂ける。市・町の単位で防災士協議会を立ち上げてそこが組織となる。地域で女性の防災士が生まれたことによって地域の防災訓練の時、意見が言えるようになった。

また他の方がおっしゃるには、防災士という前に、石川県の危機管理課が災害ボランティアコーディネーターという講座をし、2 日間受けて県の災害ボランティアコーディネーターになるという事が防災士さん 1,000 人にしようということの前にあったと。毎年終了証明、コーディネーターになりましたという証明書は出ました。次回レベルアップ講座があり、その中で避難所を作る時にど

うしたら良いか、そんな事を学んでいくのが主体になっていく。

東京は中々危機感がないようでと言うと、『私達はどんな這いずり回っているようなおばあさんでも、一緒に逃げると言う為にどんな手だてが取れるだろうかと考えて、それも防災士という資格を持って、ひとり暮らしの人など、何か困ってない？と言って密な隣組体制を作るように心がけている』との真剣なお話でした。

皆さんのところでは最初にコミュニティがあってリーダーのもと、こうしましょうと言われたらそれについて来られるということですが、そんなことは無いです。都会と同じようにどこにもプライバシーはあって『隣近所でイヤやし、いじくらしいな』と思って排除したり、ちょっと遠のきたいこともありますよ。だけど最後のところで、ここだけはつながっておかないとだめだと。地方も同じく時代の流れによって付き合い方も変わってきているとのこと。

目黒区は気仙沼と提携都市となっていて交流会のうちに、気仙沼の方が防災について、とにかくプライバシーとかあるので日頃はともかく、近助、『近く助ける』これを大事にして下さいと。近くの人が助け合うそういう念押しがありました。とお伝えして、交流会を終えました。

記録 奥山利子（ウイメンズめぐろ）



10月27日(金) 金沢市の男女共同参画施策について学ぶ

説明 金沢市市民局人権女性政策推進課担当課長補佐 田邊孝子氏
同課 主任 政浦尚胤氏

田邊氏と、実際に共働きで子育てをしながら働いている男性職員の方から、事前に準備して頂いた資料をもとに、説明を受けました。

市の取り組みや、更に強化すべき施策と問題点をお話し頂き適宜質問に答えて頂き、ざっくばらんで和気藹々の雰囲気の中、お聞きすることが出来ました。

金沢市は、大戦時に空襲を受けなかったため、昔からの街並みや建物が沢山残っていて、また歴史も古く、栄えた町ですので、伝統ある文化や産業が多く、第三次産業に携わる女性も多い。しかし、大企業が少なく、中小・零細な企業が多く、女性の就業率は高いが、非正規雇用も多く、管理職につく女性は少ない。伝統職人も多いが、女性は家事・育児をやりながらという中では、趣味としてやる人はいるが、本格的に職業として活躍できる状況ではないということが判りました。そういう意味で、家庭の中での家事の共同参加が出来るような意識変革や、男性が家事に参加できるような労働環境の改善が必要であることなどが話されました。加えて企業の意識改革が重要であることから企業への施策に力をいれられていました。因みに保育園の待機児はゼロでした。

又、来年2018年度日本女性会議の開催地となっていることで、女性の能役者さんの出演を予定したりと意気込みはあるが、市当局の担当部署の女性職員が少ない事、宿泊施設不足やボランティア集めなどなかなか困難な問題があることも話されました。中堅都市とはいえ、地方で全国規模の行事を開催するのはかなりご苦労があるようでした。

説明して下さった金沢市男女共同参画推進関連事業の内容は概略を下記に記載しますが、詳細は市のパンフなどを転記します。

まず、市の「男女共同参画型社会づくり」の歴史的な流れの説明がありました。

H3 「金沢市男女共同参画型社会づくり懇話会」を設置。懇話会が「女性プラン男女共同参画をめざして」を提言。庁内に「女性プラン推進会議」や、「女性施策推進室」を設置。

「男女平等推進かなざわ行動計画」を策定。市政参画課に「男女共同参画室」設置、という経過を経て条例の制定に至る。

H13 議員提案により「男女共同参画推進条例」を制定

(目黒区はH14年条例成立。金沢は国内で最も早いグループに入る。)

翌年「金沢市男女共同参画推進行動計画」策定し、見直しをした後、「配

偶者などからの暴力の防止及び被害者の支援に関する基本計画」の策定(女性相談支援室)。

H25. 新金沢市男女共同参画推進行動計画の策定(H25～H34 年度)。H29 中間見直し。

H25「女性センター」が男女共同参画の拠点として、生涯学習室より所管変え。

H25 男女共同参画都市宣言が市議会で議決。

市としての事業紹介

1. 女性活躍かなざわスタイル発信事業 (H29～)

①金沢にある5大学(金沢大学、北陸大学、星陵大学、金沢学院大学、北陸学院大学)

の研究室に委託し、大学生が企業の調査、取材事例、学生の意識調査をしてこれからどんなことが必要かを研究。

②調査発表・交流会の開催

12月9日学生の調査結果、企業事例の発表と意見交換会を開催

③「かなざわスタイル」の発信

ホームページやリーフレットを作成し、広く発信する

背景として、金沢市には中小企業がとても多く、大企業が殆どないこと。少子化で人材不足が深刻。学生も女性活躍という選ぶポイントが高く、企業もそこに力を入れる方向にある。

2. 金沢市女性活躍加速化プロジェクト事業(H28～)

企業・団体のニーズに応じ課題解決セミナーなどを通じて、業界全体で業界共通の女性活躍目標を立て、市長の前で宣言をしてもらう。企業にとって良い事は情報交換できること。

2年間セミナーを受けて貰い実施計画を作った企業をモデルに。現在12社

H29.5 例：旅館業
→全館の休みを設ける

3. 金沢市女性活躍促進モデル企業奨励事業(H27～)

(金沢市男女共同参画広報誌るうぷに詳細)

インセンティブ補助金を。取り組み内容を広報誌に。

4. 日本女性会議開催支援事業 (H26～) 2018年に金沢で開催

実行委員会形式で開催。今年の苫小牧ではボランティアがとて多かったが、金沢ではどこまで出来るか不安はある。10月に金沢マラソンがあるが、男性の参加を進めたいが、なかなか難しい。男女共同参画に参加する男性が少ない。担当課も女性ばかりで、男性の力が足りない。女性能役者の出演を考え

ている。

5. かなざわ女性活躍推進会議（17年新規立ち上げ）

金沢市男女共同参画審議会と連携。施策までつなげられるよう。

メンバー構成：市女性活躍モデル企業 11 社、業界取組宣言を行った業界団体に所属の事業所 2 社、女性活躍推進に積極的に取り組んでいる事業所 1 社、その他関係機関 5 名

6. 市民グループ等提案型企画事業

市民団体・グループに提案をして貰い、事業の実施を委託することにより、市民主体の活動を推進。

‘16 実績 女性の意識改革、女性の働き方セミナー「かなざわ女性応援塾」

7. 男女共同参画アドバイザーの養成

石川県はアドバイザーを廃止したが、市は残っていて、養成している。

①養成講座（‘13～） 毎年実施 全 4 回連続受講した方に、アドバイザー連絡会に所属してもらう。

②金沢市アドバイザー連絡会に、専門研修・勉強会の企画、運営や出前講座の講師として派遣を委託。連絡会に年間 25 万円を支給している。

例：オリジナル紙芝居を作って、地域に出前講座する。これは比較的高齢者対象。

連絡会 現在 32 名 年齢 40-70 歳代 女性が多く、男性 10 人以下

総会、研修会、勉強会、資質向上の取組をしている。

課題 あまり増えていない。養成に来て貰うことが困難。昨年今年と各 5 人くらい。

8. 男女共同参画出前講座開催事業

企業や団体などが開催する研修会などや、男女共同参画に限らず料理教室などにも講師やアドバイザーを派遣。

9. 広域連携促進事業（H20～）

名称石川県中央広域圏男女共同参画推進協議会。県内 4 市 2 町で協同し、1 人でも多くの住民に男女共同参画について理解を広める。

（注：金沢市説明の年号は元号のまま、筆者の追記は西暦で記載）

記録 山下美由紀（新日本婦人の会）

金沢市男女共同参画アドバイザー連絡会について

1. 目的

地域や企業等の男女共同参画を推進するアドバイザーを養成し、各分野における男女共同参画を推進

2. 男女共同参画アドバイザー登録者数

32人（毎年実施しているアドバイザー養成講座受講者で構成）

3. 活動内容

(1) 総会、研修会、勉強会の開催

◆平成29年度金沢市男女共同参画アドバイザー連絡会総会

日時 平成29年5月27日（土）10:00～12:00

内容 平成28年度事業報告、決算報告
平成29年度事業報告、予算案、今後の活動等について

◆アドバイザー連絡会研修会

日時 平成29年8月7日（月）14:00～17:00

内容 「フェミニズムと社会の改革」
講師：金沢大学国際機構留学生センター
特任助教 伊藤 大将 先生

◆金沢市男女共同参画アドバイザー連絡会勉強会

①日時 平成29年5月12日（金）10:00～

内容 紙芝居の練習

②日時 平成29年6月26日（月）10:00～

内容 出前講座について
（紙芝居、ワークショップの内容等）

③日時 平成29年8月7日（月）13:00～

内容 出前講座について
（報告及びワークショップの検討）

(2) 出前講座の実施

①日時 平成29年7月22日（土）9:30～

②対象 諸江校下女性会 24人

②内容 紙芝居「お父さんのエプロン」
家庭での男女共同参画について

研修のまとめと感想

廣橋泰子（女性学習グループ連絡会）

11月15日号のめぐろ区報では、2017年10月28日に目黒区と金沢市が友好都市協定を結んだとトップ記事に掲げている。私達は、その2日前に金沢市入りし、区長より一足早く友好関係を結んできた。

○なぜ金沢を研修地に選んだか。

金沢市は、男女共同参画条例の制定が目黒区より早く、2001年に制定されており、石川県は、2011年3月末までに全ての市町に、条例の制定と推進計画の策定が達成されたところである。達成率100%を実現しているのは、全国で石川県と大分県の2県のみで、制度面では真に先進県といえよう。そしてこの制度を地域社会に浸透させていくのが、女性センターが養成している男女共同参画推進員であり、アドバイザーである。

一方、私達が目黒区では、「コミュニティ施策の今後の進め方」について検討されているが、その過程で行われた区民意識調査で残念な結果が出た。区の主な施策26項目の中で、最も大事だと思うものを問う設問で、上位は子育て支援、高齢者福祉、防災対策であったが、男女平等・共同参画は最下位であった。まだこの分野の重要性は、区民に認識されていないのだと痛感させられた。そこで、男女共同参画先進県である石川県並びに金沢市の取り組みに学び、目黒区に活用できればと考えたのである。

○研修を終えて思うこと。

石川県は、女性の就業率全国2位、M字カーブもゆるやかで、女性が結婚、出産後も働けるよう保育所が整備され、待機児童はゼロという。しかし、裏を返せば、大企業が少ないため、男性の都市部流出や、低収入が理由で女性が働かざるを得ない状況になっている。そのため、男女共同施策は都市部より重要視されているのだと思う。女性の活躍を支援する体制は、県と企業が出資する公益財団法人「いしかわ女性基金」が設立され、女性の能力開発や、スキルアップ、キャリア形成などの人材育成事業が展開されている。

女性の活躍は就業のみならず、地域社会でも活発に行われている。今回交流させていただいた石川県各種女性団体連絡協議会の方々は、その代表である。石川県は防災に関しては特に力を入れ、女性防災士1000人を養成し、避難所に配置している。会長の常光さんは、その1人である。副会長の前さんは保護司で、更生保護施設に手づくり弁当を届ける活動をしているそうである。その他の方々も、それぞれが地域社会と密接な関係を持ち、心の通った活動をされていることに感銘を受けた。これを機会に私達も見習わなければと思う。

歴史と伝統の街金沢研修に参加して

山下美由紀(新日本婦人の会)

弁当忘れても、傘忘れるな！という格言があるという金沢。それほど晴れの少ない（統計でも石川県は晴れの少ない県の上位）所だそうですが、研修中はとても素晴らしい秋晴れが私たちを迎えてくれました。金沢城祉や兼六園の緑が、紅葉が始まった街路樹と相まって、本当に美しく、私たちの心をさわやかにしてくれました。

JR金沢駅の東口には、2005年に作られた、能楽の加賀宝生（かがほうしょう）をモチーフにした鼓門（つづみもん）と、総ガラス張りのもてなしドームと大きな松の木々が訪れる人々を迎えます。ガラスとパイプの大屋根は、高さ30m、金沢を訪れる人にさし出す傘のイメージで、雨や雪の多い土地で濡れないようにという、もてなしの心を、また、鼓の形の門は、能が盛んな伝統芸能の土地を象徴させたといいます。開発と保存がテーマということですが、21世紀美術館とは対照的に、第二次世界大戦の戦火を免れた町は古い歴史のある建物がたくさん残っていました。果たして、こういう街で女性はどんな暮らしをしているのでしょうか？ 興味が増しました。

初日は、石川県男女共同参画推進会議と金沢女性センターの方との懇談でした。石川県の女性の就業状況は、就業率は高いが、管理職割合は全国比率より低い現状があることを踏まえ、男女ともに働きやすくを目標に取り組み、企業の表彰をしたり、推進委員を100名に近い人数に増やしたり、更に応援団なるものを作ったりしていること。年1回啓発の為、ワークショップなども行っているなど、企業への働きかけに力を入れていると感じました。又、人口減の状況の中で、自治会、町会の役員のみならず手を増やそうと色々工夫していることは面白いと思いました。

石川県では、防災士を8,000人（男女の視点で話し合うことが大事で、内2,000人を女性）育成するという目標を持ち、既に女性は1,000人に近づいているという素晴らしい取り組みがあることは興味あるものでした。私も2011年日本女性会議において防災のことを学んで以後、地域の避難所運営協議会に参加するなど活動しておりますが、今まで防災士という観点はあまりなく、石川県各種女性団体連絡協議会の方々との懇談でも、どんな役割があり、どれだけの力になるのかを質問させて頂きました。多いことはそれだけ街に知識や意識のある女性がいるということで、災害が起きた時、実際に自助の力になるというお答えでした。はっとするご指摘でした。

後日目黒区の防災課の方に、目黒の現状をお聞きしたところ、昨年から取り

組み始めたばかりで、目黒では20数名いらっしゃるそうです。もっと増やしたいとお話しされていました。因みに10月末現在防災士人数は、東京都11,738人、石川県は4,660人です。人口比でいうと圧倒的な違いといえるでしょう。

石川県女性センターは、大会議室(定員100人)、研修室1・2(定員各30人)、研修室3(定員16人)多目的実習室(定員30人)、会議室(定員20人)を備えています。1階には喫茶室があり、軽食もとれるようになっています。これは利用する人にとってはとても良いと思いました。他にロビーではテーブルがいくつも備えてあり、誰でも使えるようになっていました。目黒と比べると充実しています。

又、同建物の3階は「金沢市女性センター」が併設されていて、ここにも研修室(定員60人)、茶室(定員20人)、相談室(定員15人) トレーニングルーム(定員30人)、幼児室(定員20人)、実習室(定員24人)があり、パソコンが据え付けてあるパソコン教室、ミシンなどがある洋裁室もありました。この市の女性センターは来年移転予定で、更に充実される予定とのことでした。使い易さと多様なニーズに応えている印象がありました。

男女共同参画センターではなく、女性センターという呼称は、まだまだ女性に支援が必要ということで、この名前を使っているとのことでした。共感!!

石川県各種女性団体連絡協議会の皆さま方には、前の会の懇談が長引き、大変お待たせしてしまい本当に申し訳なく思いました。お忙しいのにもかかわらず、暖かいお茶と美味しいお菓子をご用意頂いたのに冷めてしまい(冷めても美味しかったです。また珍しいごぼう茶も美味しかった)、心からのおもてなしを頂きながら、お待たせし、十分な懇談が出来ず、心苦しさで残念な思いでいっぱいでした。お詫び致します。

各種と名前がついているように、実に様々な団体が参加していて、連絡会のひとつのあり方を示していました。

夕方空いた時間に、目黒の女性団体の元役員をなさっていた方のお嬢さまという目黒区出身の女性漆器職人さんの個展に行き、受賞作品などを拝見しながら漆器の作り方をお聞きしたりして、漆器の奥深さや高価さが肯けるご苦労が偲ばれ、伝統文化を大切に繋いでいく若者にエールを送る気分でした。

どの訪問先でも、事前に資料を準備し、お忙しい中お時間を取って頂き、示唆に富むお話をして頂きました。本当に有難うございました。金沢市女性センターの説明と案内をしてくださった方はまだ経験は浅いという年配の方でしたが、男女共同にとっても優しい目で取り組んでいらっしゃる様子で嬉しかったです。学んできたことを更に生かせるよう、心して頑張りたいと思っています。

目黒女性団体連絡会や目黒区のお力添えにも感謝申し上げます。

国内研修金沢に参加して

奥山利子（ウイメンズめぐろ）

伝統と文化に造詣が深い金沢で、世襲制や家族のつながりなど踏まえての男女平等・共同参画推進は、どのように進められているのだろうか。観光地でもあるその中で、女性たちはどのように活かされてきたのだろうか。興味を抱き、金沢研修に参加させて頂きました。

研修前に、頂いた資料の中に、「華輪」という冊子があり、『強靱な地域社会とは、男女共同参画がベースにあってこそ』との石川県各種女性団体連絡協議会会長さんのご挨拶文に目が止まり、気になっていました。

最近、私たちの回りでも男女平等・共同参画とあえて主張するより、『これからは多様性の時代です』と言われることも増えてきましたが、私の懸念するところでもありました。

そのご挨拶文には更に、『男女共同参画こそが多様性の1丁目1番地である』と。そして人の力を集める組織や地域こそが生き延びるのだと確信しているとの力強いお言葉に是非ともその訳を知りたいとも思っていました。

今回は、石川県各種女性団体連絡協議会の14加盟団体のうち、5団体の方々との交流会を設けていただき、それぞれの活動や、スローガンなどをお聞きして、どの団体も生き生きとして、心のこもった活動に会長さんの『強靱な地域社会』とはこういう事なのかと、私なりに理解しました。

例えば、石川県各種女性団体連絡協議会は、加盟団体が県単位とはいえ、会員数がとても多く活動もダイナミック。石川県更生保護女性連盟の方々の毎週のお弁当お届けボランティア。『責任をもってお届けしています』との信頼関係と、毎週のお届けには敬服しました。JA 石川県女性組織協議会の「神子原米」のお話もローマ法王に献上することとなった経緯など。帰ってから調べてみましたが、そもそもここにたどり着く前に考えたことは、“心おこし”そして限界集落の「町おこし」となって今も進んでいるという。やはり地域の力が、大きなうねりとなって生きているのかと。

それとは対比的に、交流会の最後に、皆さんがおっしゃったことは、東京は一極集中と言うが、今のままでは一極崩壊ではないか。傍から見ていると、心配ですよと。なによりも『心から一番先に壊れますよ』と言われて、いやいやまだまだ私たちも頑張らなければいけない、と心でつぶやきましたが、返す言

葉もありませんでした。

東京の…目黒区の地域のあり方を考えると、とても強靱とは程遠いが、都会と地方の違いはあれ、都市は都市なりの『都市おこし』もあるはず。改革するにも人々の協力あつての改革ですから。私たちの地域。まずはそこから見直してみたいという課題ができました。

石川県各種女性団体連絡協議会の皆さまは奉仕の精神の持ち主であると同時に、受援力（助けを求める）を身に着けていらっしゃる。色々な人達とつながっていくことを大切にしている。女性防災士のお話も、現在1,000人は超えて5年以内に2,000人は達成できるだろうとのこと。目黒区と金沢市はこの2日後の28日に友好都市協定を結びました。もしもの時、金沢市の女性防災士の方々にお世話になることなく、これからは、区長懇談会で、『防災士を3年間で200人を目標』とお聞きしているのです。次回交流会があるならば金沢市の女性防災士の方々と交流できるようにしたいと思います。

今回の研修では、少ない時間の中ではありましたが、実りある研修をさせていただき、今後の活動に活かしていきたいと思ひます。

各方面の方々、研修でお世話になりました皆さまに心より感謝申し上げます。



研修を終えて

酒井寿子（ウイメンズめぐろ）

国内研修の初参加は 30 年程前の名古屋へ。長い年月を経て、この研修もその目的・方法が私たちの参画の意識にともなって向上している。この度は日頃は遠くから見ている目黒区のお他団体の方々と親しく行動し、活動目的・年月にふさわしく、言葉では説明しなくても、伝わるものを感じる有効な交流がプラスされたのは、ありがたいことであった。

男女平等・共同参画をテーマに金沢市の職員および女性団体のみなさんと交流をもち、目黒の日常では散漫になっていることを思い起こす契機となった。

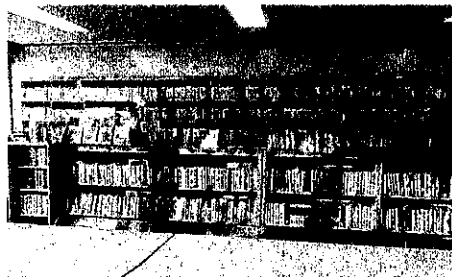
基本の活動であるけれど、私たちは、男女平等・共同参画を掲げて地域に出る、あるいは地域の趣味のサークルをセンターに呼び込み、気楽に人権問題を語れる場を持てるのではないか。自分のことだけでいっぱいになっている人々が緩やかな気持ちを持てる場として、中目黒スクエア、男女平等・共同参画センターの活用を久しぶりに前向きに考えるきっかけとなった。さしあたって、所属している会でどう動こうか。疲れないようにゆっくり、小さな集まりを大切にしたい。

夜道を迷いながら訪ねた輪島塗工房では、見事な作品を生み出している元会員のご長女との交流、当地の暮らしと女性の自立（ウイメンズめぐろのテーマの一つ）に触れることができた。

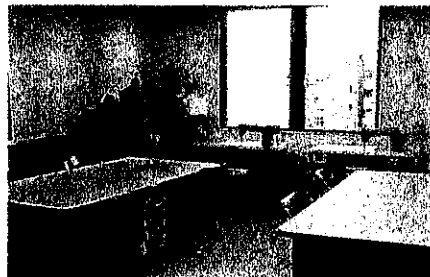
二日目は、市役所で市の施策・活動の分かりやすい説明を受けた後、大通り向かい側の 21 世紀美術館の回廊を通り抜け、紅葉の兼六園も通り抜け、青空とすがすがしい秋をやっとの思いで感じて、予定の行程は無事終了した。

この研修から気づいたことは多く、それらをどう活かそうかと、所属のサークルで、会発足 30 年目の活動を、新たに元気に続ける気持ちになっている。

補足 この原稿を書くにあたって男女平等・共同参画センター資料室をうろろうろし、何やらつぶやいていたら、担当職員がウイメンズめぐろの 30 年前からの記録をとり出してくれた。資料室のすべてに感謝したい。



図書情報室（石川県）



実習室（金沢市）

目黒区民として共に活動できる大きな一歩に

秋枝 シュザンヌ（女性学習グループ連絡会）

目黒女性団体連絡会国内研修は、2017年金沢と予定されていると聞いたとき、ぜひ参加したいと思って応募しました。わたしは目黒区女性グループ連絡会活動のなかでは、経験が浅いのですが、金沢との関係はだいぶ昔まで遡ります。

1970年長女が生まれて、目黒区に最初住んだところが駒場東大前でした。乳母車で一番すきな散歩道は、前田邸とその公園でした。

わたしの母国ベルギーの第三の都市ゲントは、1971年に金沢市と姉妹都市になりました。もちろんその頃、金沢にも旅行しました。また1979年から、EC（European Community）は日本の大きな地方都市で、EC委員会を作るキャンペーンを始めました。それは経済の面だけではなく文化の面でも、おたがいの理解を深めようとするものでした。そこでわたくしは、日本に住んでいるヨーロッパの女性たち（ドイツ、フランス、イタリア、ベルギー）と石川県の女性たちとの交流に参加しました。一緒に金沢の伝統工芸、金箔漆と加賀友禅のアトリエを訪ねました。二日間の交流の締めくくりには、お料理をつくり、豊かな食文化をおたがいに味わいました。

今回の研修の第一の感想は、金沢という所が歴史と伝統の街でありながら、決して古いだけではなく、新しい考え方を取り入れ、バランスのとれた施策をとっていて、女性の活躍を進める努力をされていることです。又、説明をしてくださった県や市の担当者の方がとても暖かい対応をしてくださったのが印象的で嬉しかったです。特に、金沢市の女性人権政策課の若い男性職員の方が、ご自身も共働きで家事に携わりながら、仕事をされていますが、古い考え方もったお父さんが、お母さんが仕事をするようになったことを見て変化していくことを表した「お父さんのエプロン」という紙芝居を作り、アドバイザーの方たちと啓発のお仕事に力を入れていらっしゃる事が嬉しく、感動しました。

そして、国際交流課に立ち寄り、ベルギー人の職員さんとお話が出来たことは、とても刺激になりました。

第二に、1泊2日の研修や行動を共にすることで、ご一緒に行った方たちとの絆が深められ、良い関係が築けたことがとても嬉しかったです。

外国人ということではなく、目黒に住んでいる人間として、これからご一緒に活動する大きな一歩になりました。

目黒区と女性団体連絡会がこの機会を与えてくださったことが有難く、感謝とお礼を申しあげたいと思います。

「お父さんのエプロン」

●登場人物

雪江(50歳)

主婦。猛と結婚してからは、仕事を辞め、家事と育児に専念してきたが、今までの生き方に疑問を持ち始める。

猛(52歳)

雪江の夫。母・明子の影響で「男は仕事、女は家庭」という考え方の持ち主。

明子(75歳)

猛の母。家庭を守り、子どもを育ててきたのが誇り。自分の考えを雪江にも押しつけている。

恵(22歳)

猛と雪江の娘。大学生。親からの仕送りに頼り切って学生生活をエンジョイしている。



国内研修2017金沢報告書

発行 2017年12月15日

編集 目黒女性団体連絡会

152-0013 目黒区南3-14-17

代表 松尾佐知子